

に下坂の歩進み次第に惣て討死侍もやあへられ  
四郎大進侍も味方敗軍にけりも敵の陣所は惣所  
一戦もあらず下坂侍も有る尾浦城定めて焼し  
たふ西北の海辺にひとりう橋山と云ふ處に夜に入て中陣  
へ相討侍人と存けり日頃の晴くは時をよみて急きけ  
るやくせざる者を思ふも若く五人は死にけりけ人を  
そて逃をえざるを捕えて東海林の前は引戻りに  
果へ何れ者も死にけりも偽る首を命じてさけれ是  
う坂左衛門殿の人まゝに昨夜尾浦に越えし只今歸り  
にせし中もあらず軍の次第もあらずといふも越後勢も余

尾浦加茂津津山を越えし千安川大山  
川を越えて戦ひうへにありて最上勢も討  
死せり尾浦の城を以てありし砂越及う坂殿を越後勢  
と一ツにあり丸尾兵庫殿大將と二丸に大を寄り最上勢  
を討取つ時黒の長束以下敵へに討たれて城を出  
て酒田の方へ逃られしと語りしを聞いてつね上の方の大將  
に討つかと問ふれし番敷子細にせよ山形より市上使  
節の虎より尾浦の市取代に馬の殿中有人に市  
首を斬大將の書指成りて下にお上勢に送れりて  
市上長殿自ら原由にありし番細の義氏者首